



市民農園・営農ヘルパー農園の利用者を募集します  
有機農法で野菜を育てよう



佐野体験農園

原則として化学肥料、農薬を使用しない有機農法を学びます。安心、安全な野菜が収穫出来ます。日当たり、景観が良く、雨水タンクも備えています。

ところ 佐野字片平山1680-1

開園時間 4月1日～11月30日…午前8時～午後6時、

12月1日～3月31日…午前8時30分～午後4時

休園日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は、その翌日）、12月29日～1月3日

貸付期間 4月1日～平成29年3月31日※契約更新は4回まで可能

サポート内容

Aサポート…営農指導・堆肥肥料セット（年2回分）・耕運（年2回分）・農具利用（トラクター・管理機の利用は含まず）・残渣排出

Bサポート…農具利用（トラクター・管理機の利用は含まず）・残渣排出※耕運は1回1,000円に対応可能

団体サポート…営農指導・堆肥肥料セット（年2回分）・農具利用・残渣排出

サポート	区画面積	募集数	貸付料（年額）※
Aサポート	25㎡	10区画	24,000円
	40㎡	2区画	31,200円
Bサポート	25㎡	3区画	12,000円
	40㎡	3区画	15,600円
団体サポート	500㎡	1区画	120,000円

※市外の方は2倍の貸付料がかかります。



▲佐野体験農園の様子

山田川自然の里市民農園

ところ 川原ケ谷943-1ほか

区画面積 約50㎡

募集区画数 一般向け農園…10区画

貸付期間 4月1日～平成29年3月31日※契約更新は4回まで可能

貸付料 10,000円（年額）

※申込者を対象に、場所決め抽選会を3月6日(日)午前10時から大社町別館1階防災研修室で行います。

山田川自然の里営農ヘルパー農園

本格的に農業を始めたい人や、手伝いができる人材の養成をめざした農園です。専門家の指導のもと、有機農法による農業技術を学びます。圃場が広いためしっかり管理ができ、やる気のある人を募集します。

ところ 塚原新田461ほか

対象 本格的に農業を学びたい人

募集区画 1区画（1区画の面積…約500㎡）

貸付期間 4月1日～平成29年3月31日※契約更新は4回まで可能

貸付料 10,000円（年額）

注意事項（3農園共通）

- 各農園の利用上の注意事項を読んでください。
- 申し込み前に必ず現地を確認してください。畑の中への立ち入りは禁止です。現地見学は開園時間内に、自由に出来ます。※山田川の農園はいつでも可。
- 借用区画位置の指定はできません。
- 既存農園利用者の都合により募集区画数が増減する場合があります。
- 応募多数時は、市内在住の人を優先して抽選します。結果は後日通知します。
- 申込書、区画図、各農園の注意事項は農政課または市ホームページからダウンロードできます。

申込み（3農園共通） 2月18日(木)（必着）までに、直接または郵送で、希望する農園の申込書を農政課（〒411-8666北田町4-47）へ。

問合せ 農政課（☎983-2652）

## 三島のまつりの今 —各地のドンド焼き—

郷土資料館では一月三日(日)から企画展「三島のまつりの今」を開催します。今回は、その中から市内各所で行われている「ドンド焼き」について紹介します。

ドンド焼きとは小正月（一月十五日前後）に行われる火まつりで、地域で集めた竹や正月飾り、書初めなどを山のように積みあげて燃やす、子どもたちが主体のまつりです。伊豆から関東・甲信地方にかけては道祖神どうそじんと呼ばれる石造物（サイノカミともよぶ）と関連したまつりとされ、かつては炎の中に道祖神を投げ入れる地区もあったそうです。

しかし、近年ではその関係は薄くなるか、まったく意識されなくなっているようです。火で米粉の団子を焼くこと、山の真ん中にオンベと呼ばれる長い竹を立てることなどが主な共通点です。

以前は一月十四日または十五日

がまつりの日でしたが、現在では地区によりさまざまです。また、まつりの主体や内容にも地区による差が見られます。

安久地区では、子ども会とは異なる「安久子供クラブ」という自主的な団体により実施されています。



▲安久地区の様子

佐野地区の特徴は、ドンド焼きの数日前から地区内の各所にある道祖神が正月飾りで飾られ、前日または当日の午前中に田んぼなどに積み上げられます。ここでは今



▲佐野地区の様子

でも道祖神と関連付けてドンド焼きが行われています。

佐野見晴台では、単に子どもたちのまつりというだけでなく、災害時の炊き出しの訓練にもなる餅つきや、シャギリの演奏などさまざまな催しが併せて行われます。住民は子どもの有無にかかわらず参加するため非常に大規模な行事になっています。



▲佐野見晴台の様子

昔は竹の切り出しなどの準備段階から子どもが中心でした。となりの地区の山を壊しに行くこともあったようですが、そのような荒っぽいできごとも見られなくなつて久しいようです。

また、現在は実施の中心も地区の実情に合わせて子ども会、町内会、隣組、自主的な団体などさまざまになっています。



三島の村名④

青木  
(中郷地区)

青木は中郷地区の内、御殿川中流域の西側に位置します。地名の由来について、かつて大樹が多く生えていたことから「オオキ」と呼ばれ、それが訛なまって「アオキ」になったという説があります。

青木の地名は室町時代成立の古文書に確認できるのが最初です。この古文書は、平成二十五年に国宝に指定された「醍醐寺文書」の一つとして伝来しています。鎌倉・鶴岡八幡宮寺の僧侶弘賢こうけんから、京都・醍醐寺の僧侶満濟まんぜいにあてて作成されたもので、熱海の密厳院（伊豆山権現〈伊豆山神社〉に付属して置かれた寺院、現存せず）が関東にもついていた領地を書きあげたものです。

文書中、豆州（伊豆国）に所在する密厳院領として「青木村」の名が見え、そのほか、丹那郷（函南町）・田代郷（修善寺町）・大田家村（函南町大竹）・蛭鳴郷（葦山町）などの名も確認できます。



▲応永5年（1398年）6月25日付  
「伊豆密厳院領関東知行地注文」  
（総本山醍醐寺提供）